



Vol.39 新春号

発行
富山市民国際交流協会
広報委員会

〒930-0085 富山市丸の内1丁目4番50号
富山市国際交流センター(市図書館1階)内
TEL (076)442-1109 FAX (076)442-3807
発行責任者 広報委員会委員長 岡田昌代



秦皇島市表敬訪問
趙副市長はじめ幹部らと親しく歓談



中国民族楽器の演奏
秦皇島市の計らいで答礼宴の雰囲気盛り上がった



答礼宴
法被姿の団員たちは、趙副市長はじめ客人らを迎えて
日本の歌や中国の歌を歌ったりおわら踊りなどで交流



秦皇島市迎秋里実験学校訪問
校庭で子供たちから熱烈歓迎

協会設立10周年記念

海外研修 中国友好都市親善訪問

秦皇島市友好訪問

富山市と秦皇島市(QIN HUANG DAO)は

1981年5月7日に友好都市締結をしました



温かい交流
子供たちの歌や踊りなどを楽しんだりみんなで一緒に
「幸せなら手をたたこう」を歌った

あけまして おめでとうございます 富山市民国際交流協会

2002.10.12~10.19

海外研修

10周年記念

中国友好都市親善訪問

悠久の歴史——北京・秦皇島・瀋陽・大連——近代中国

久保田照雄富山市民国際交流協会会長を代表とする一行18名は悠久の歴史と広大な自然、そして近代化が進む巨大な中国にふれて親善と交流を進めることを目的に出発しました。

秦皇島市表敬訪問や秦皇島市人民対外友好協会への友好親善奨学金の贈呈、迎秋里実験小学校の視察そして交流会などを通して親善と友好交流を深めました。

また、北京、大連、瀋陽を訪ね、偉大な歴史や美しい自然そして、旧満鉄や203高地など日本と関わり深い歴史や異国情緒漂う街並みに感動と興味深い印象的な研修旅行でした。



北京「天安門」広場



秦皇島市の路上「とこや」?



秦皇島市街なかの輪タク



中国で一番きれいな街といわれている大連市街



中国友好訪問団 写真展

2002. 12. 24~12. 27

富山市役所
1階 多目的ホール

旅程



久保田会長を団長に中国視察

姉妹友好都市委員長 梅澤 信義



日本語を学ぶ学生を支援する「友好親善奨学金」を贈呈

今年の海外研修は、富山市民国際交流協会10周年を記念して、久保田会長、小川副会長が揃っての参加となり総勢18名で中国を訪問しました。日中国交正常化30周年を迎え祝賀ムードいっぱい北京をはじめ友好都市秦皇島・瀋陽・大連の各都市を訪問して日中友好使節団としての役割を立派に果たしました。

秦皇島市表敬訪問の際には、趙副市長や閻副秘書長ら幹部が出席、久保田団長と親しく歓談、富山・秦皇島両市間の益々の友好発展を確認しました。秦皇島市主催の歓迎宴会でも大変賑わいましたが、協会主催の答礼宴では訪問団員全員でコキリコ踊りやおわら踊りを披露し、華やかに相互の親善に努めました。

富山県と友好提携を結んでいる遼寧省の瀋陽と大連は日本とのかかわりの深いところです。瀋陽では富山テレビ局と友好提携を結んでいる瀋陽電視台を訪問しました。34階建ての中国最大の局の応接間に通された時は、そのスケールの大きさと豪華さに驚かされました。

大連には、旧満鉄の本社ビルや関東軍司令部の赤い建物が現存していて当時の日本の勢いが感じられました。現在、中国で一番キレイな街と言われるだけあって整然とした街並みは近代中国を象徴しているようでした。

今回の研修は、秋の10月12日から19日までの7泊8日の旅でしたが、後半は、今年の日本の気候と同じく寒さの中の訪問となりました。だが、誰一人身体の不調を訴える人もなく、無事研修を終えることができたことは何より大きな成果でした。今回の研修の成果を今後の協会の発展に生かしていきたいと思ひます。



1934年に運行開始された満鉄が誇る「アジア号」の前で

姉妹友好都市委員会

1995. 9. 23~9. 29

日本語を学ぶ学生に対する
奨学金支給協定書の調印式

1998. 9. 15~9. 22

“你好”
“熱烈歡迎”

平成6年について2回目となる囲碁交流は、和らかに真剣に対局が行われ、言葉が通じなくても盤面で話すことができた素晴らしい交流でした。

1997. 9. 6 ~ 9. 10

慶一高校の先生と
松茸料理で懇親交流

懇親会では日本語のできる方が多く話題も豊富で、特徴あるアクセントもより一層親しみを増しました。

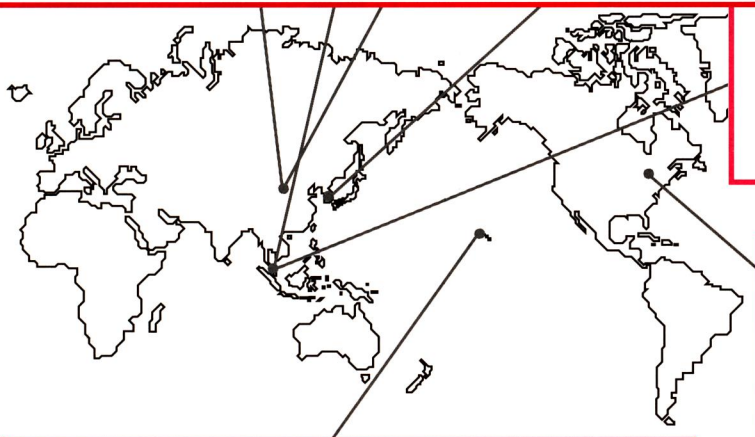
2000. 2. 8 ~ 2. 13

リー会長「この訪問をきっかけに絆が深まり、両協会がより良い関係を築いていけることを期待します」…と。

1997. 2. 19~2. 24

星日文化協会にて陸学院長の説明を受けました

タイでは、合弁会社「YKKタイ社」を訪ねたり、シンガポールでは、富山市と交流が深い「星日文化協会」や「日本語学院」に学ぶ現地の人たちと交流交歓をしました。



2001. 2. 9 ~ 2. 13

[illegible]

2001. 2. 25 北日本新聞

姉妹都市提携 5 周年記念を市民交流で

1994. 10. 15~10. 24

Cherry Blossom in DURHAM
日本桜の種子贈呈

(平成ライオンズクラブから贈呈された日本桜の種子15,000粒をデューク大学の日本庭園で訪問記念に撒く)

ダーラム市の誇るデューク大学にて

～ 国際交流の先進交流協会に学ぶ ～



財三鷹国際交流協会高階事務局長を囲んで

武蔵野市国際交流協会黒澤事務局長と
杉澤プログラム・コーディネーターと意見交換

当協会は設立10周年を迎えます。

今回は、国際理解教育とその活動の支援などをすすめる「国際理解推進事業」や、日本語を通じての交流をすすめる「日本語教育推進事業」の中で、言葉の理解・人間同志のふれあいを深める・市民活動としての日本語「共有」の試みなどのほか、学びたい、参考にしたい事がたくさんある財三鷹国際交流協会、武蔵野市国際交流協会を訪問しました。

その高い意識と環境・活動状況、そして、目標などの説明を受け、さすがに先進交流協会であることに感心させられました。

両協会の大変進んだ日本語ボランティアについては、それぞれ日本語教室や日本語個人レッスン、マンツーマン日本語交流員活動などに当協会会員たちからの質問も多く、予定時間を超過して意見交換が行なわれ、多くを学び有意義な研修でした。

今回の国内研修には、会員たち22名が参加しました。雨の富山を出発して、晴天の三鷹市、武蔵野市、紅葉の信州路、雪の上越と季節の

うつろいを愛で、そして、その地方での季節の味も食しながらのたのしい親睦のバス旅行でした。



長野のりんご園

研修報告

総務企画委員長 北東 俊夫

国内研修は「市民レベルの国際交流を行う先進協会を訪問し、各種事業やボランティア活動の状況、交流のありかた等を研修する」を目的に'93年から実施してきました。

今年は、財三鷹国際交流協会、武蔵野市国際交流協会を訪問しました。

特に注目すべき事柄について

・三鷹・武蔵野市とも市民レベルの交流を促進し、協会の枠にはめないで地域はもとより広域にわたって人材活用、情報提供、参画のもとで、活動が行われている。

*** 国際交流とは「市民に活動を移行」***

- ①受け皿の市民が国際交流に意識を持っていること
- ②事務局は市民にバックアップ意識を持っていること
- ③首長の理解が必要である

・市民のみなさんが企画から実行まで手掛けた“ひと”“もの”“こと”を集めた「国際交流フェスティバル（まつり）」が開催されている。

・青少年を対象とした事業（スキーツアー・子供交流会・海外との絵画の交換事業）が行われている。

特に、武蔵野市において在住外国人の問題を解決し地域のセーフティネットの役割を果たす「多言語による専門家相談会」、学校と地域がつくる国際理解教育「外国人が教室にやってきた」…共育…に関心事。

質問項目	財三鷹国際交流協会	武蔵野市国際交流協会	富山市民国際交流協会
所在地	三鷹市	武蔵市	富山市
人口(市)	H14・9・30現在 167,088人	132,057人	322,550人
世帯数(市)	80,163世帯	66,434世帯	117,973世帯
外国人登録者数・% (市)	2,870人・1.717%	2,482人・1.879%	3,603・1.142%
姉妹友好都市	なし	友好都市のみ ハバロフスク市(ロシア) ラボック市(アメリカ) グラショフ市(ルーマニア) 北京市(中国) 忠州市(韓国)	モジダスクルーズ市(ブラジル) 秦皇島市(中国) ダーラム市(アメリカ)
協会会員数	維持会員697人 (一般608、学生89) 賛助会員 12人 外国人登録 487人	1,681人 (賛助会員537、 外国人会員1,144)	法人61、家族19、個人589
施設名称	三鷹国際交流センター	MIA事務所 (武蔵野市サインビル9Fに入所)	富山市民国際交流センター
設立年月日	平成14年4月1日	1997年10月	平成5年1月13日
床面積	4階393.74㎡の約3/4	200㎡	612.61平方m
施設内容	事務室 ラウンジ 会議室	別紙	友好姉妹都市コーナー 企画展示コーナー 交流コーナー 情報コーナー 会議室 事務室(相談コーナー)
単独・複合施設	複合(子供家庭支援センター・保育園・市営住宅etc)	民間のビルに入所	複合・市立図書館1階
職員数	(常務理事 1) 事務局長(市から派遣・常勤) 1 固有の職員(常勤) 1 契約職員(週36時間) 2	事務局長 1 常勤職員 3 非常勤職員 3	事務局長 1 常勤職員 2 非常勤職員 2
勤務態勢	8:30～17:15 日祝日原則閉館	8:30～17:15 日・月・祝祭日休日	8時30分から21時00分まで。 毎月曜日、祭日休日 早出・遅出

総務企画委員会



クロアチア訪問団の派遣

昨年、「2002FIFAワールドカップ」が日本と韓国で開催され、6月には、クロアチアサッカー・チームが富山でベースキャンプを行ないました。

クロアチアとの交流のあり方を求めて、11月6日～12日に当協会副会長の小川弘氏を団長とした答礼訪問団が派遣されました。

浦安市の国際交流を学ぼう

1996. 2. 10
当センター

一人でも多くの会員のみなさんが参加して国際交流の先進交流協会の運営、活動を学ぶことができるようにと、当協会へ浦安市国際交流協会の辻村国際交流課長を迎えて、講演や意見交換等を通して他都市の国際交流を学びました。



「市民の参画による国際交流活動の推進」
講師 浦安市総合政策推進室
国際交流課長
辻村 聖子 氏

国際交流担い手ネットワーク会議

1997. 3. 8～3. 9
呉羽ハイツ

国際交流・協力活動に取り組むボランティアの育成・交流を目的に会員等が参加して、第1日目は「地域社会の国際交流」第2日目は「国際交流の在り方・国際ボランティアの輪について」の講演を聴講した後、情報交換や親睦会等が行なわれ、充実した2日間の研修でした。



相手の立場に立って…と講演する井波講師

〔10年を振り返って〕

国内研修

(財)大垣国際交流協会

1993. 10. 16～10. 17

初めての国内研修でした。

「ボランティアのこころ」と題する市教育長の講演は、人間の価値と足のウラにたとえられる謙虚な精神とのつながりについて話され、ユーモアな語りは、一同の笑いを誘いました。



手作りのお菓子での歓迎会で交流をしました

鯖江市国際交流協会

1994. 11. 26～11. 27

「市民でできる国際交流」について意見交換をしました。専任の職員は一人もなくて、事務局長はじめ4部会の委員長も総てボランティアの活動で運営されていました。



まず足もとより徐々に…意見交換会

上越国際交流協会 & (財)新潟市国際交流協会

2001. 11. 24～11. 25

上越国際交流協会では、「和魂洋才」と題し、日本人が忘れていていることを外国人がその良さを発見し、価値を見出しているものに着目したイベントは、とても好評とのことでした。

(財)新潟市国際交流協会では、会員制度がなく、各団体において会員制(会費)を引いていて、イベントは行政と各団体及びボランティアの協力で実施する方式がとられていました。



庄内国際交流協会

1998. 11. 22～11. 23

庄内地域で国際交流に活躍する人たちのための「出羽庄内国際村」が1994年鶴岡市に完成し、協会活動の拠点として利用するとともに、他の国際交流団体とも連携しながら全国の国際交流団体との交流も活発に行われていました。



理事の選
択や活動
等について
意見交換
をしました

大阪国際センター & 京都市国際交流協会

1997. 11. 22～11. 23

大阪国際センターでは、所長の講演の後、日系二世研修員と研修の目的や心境、センターでの活動について意見交換をしました。

2日目の京都市国際交流協会では施設見学を中心に研修しました。



京都市国際交流
会館図書・資料
室でTCA-NEWS
も紹介してあり
ました

(財)豊田市国際交流協会

1999. 11. 20～11. 21

(財)豊田市国際交流協会は、専門性、自主性、外国人との共生活動への配慮に独自なものが見られました。また、ネットワークづくりの要の事務局長 ブイ チ トルン氏(ベトナム出身)は、日本留学体験から得られた異文化理解のカギが実現されているように思えました。



指導者の殆
どが若い人
達で占めら
れていた日
本語ボラン
ティア講座

浦安市国際交流協会

2000. 11. 21～11. 23

Hand in Hand across the World「いま、世界はお隣どうし」を合言葉に、1987年から市民を主体に9つの専門委員会を中心として、それぞれ趣向を凝らし、多岐にわたった活動が企画・運営されていました。



会議室での研修交流会



11月17日 当センター

カンガルポー、カーネーション、ドラセラなどを教材に「花にハサミを入れて水盤に生ける」という日本風の花の美しさへのところ「華道」にふれました。

「華道」

講師 堀田 順子氏

中国、カナダなど富山在住の外国の人たち20余名が参加し、生け花を体験しました。



11月30日 北日本新聞ホール

統文化にふれてひとときを過ごしました。演奏後には、ALTのピクトリアさん(イギリス)から、会主にお礼の花束の贈呈や全員で記念撮影など鑑賞後の余韻も楽しみました。

「現代琴鑑賞」

音韻庵箏曲演奏会の会主、八島興作さんから「国際交流、異文化交流に役立て下さい」と留学生、ALT、富山在住の外国の人たち数10名を招待していただきました。優雅なきもの姿や箏の叙情的な響きなど日本伝統文化にふれてひとときを過ごしました。演奏後には、ALTのピクトリアさん(イギリス)から、会主にお礼の花束の贈呈や全員で記念撮影など鑑賞後の余韻も楽しみました。

「年忘れカラオケ大会」

12月15日 掛尾シダックス

「カラオケ大好き!」「カラオケで歌いたい!」という留学生や富山在住の外国の人たちと、忘年会をしました。ヒット曲や故郷を思い出して自国の歌を歌ったりとみんな自慢の「のど」をふるわせました。

文化交流委員会



10月25日 エルフ富山

瓜まんじゅうを作りました。花巻すしは、花や葉のところの具をソーセージや、いり卵などに替えるだけでいろんな花になって、ママも子供たちも大喜びでした。

「料理交流」

講師 相山敦子氏

チェコ、タイ、インドネシア、中国など富山在住の外国の人たちは家族で参加しました。

秋祭りの料理として、花巻すし、変り茶碗蒸し、南瓜まんじゅうを作りました。花巻すしは、花や葉のところの具をソーセージや、いり卵などに替えるだけでいろんな花になって、ママも子供たちも大喜びでした。



12月7日 富山市佐藤記念美術館
バットマさん(左)と亀谷仁美ちゃん

茶道に興味があるというので、茶道教室に行き、作法等を教わりました。また、上市の大岩山の不動明王や滝を見学しました。上市からの帰路に亀谷さんの実家に立ち寄り、ご両親たちと、地球儀でタイの場所を探したり、アルバムを見たりと、小さな国際交流もしました。

「年忘れファミリーパーティ」 12月15日 当センター

富山在住の外国の人たちやALTの仲間たちが集まったのしい年忘れパーティをひらきました。子供たちはパパやママと一緒にゲームをしたり、一芸を披露したりと大変にぎやかでした。

ボランティア委員会

「英語スピーチと討論(ESD)」クラス

10月(通常例会) 10月15日 18:30~20:00

テーマ 「エレクトロニクスの世界」

スピーカー 若林守光氏(元北陸電気工業社員)

11月(特別例会) 11月12日 18:30~20:00

テーマ 「芸の世界…郭の誤解」

スピーカー R.Scott.Drayer氏(高岡法科大学専任講師)

講師は、10年ほど前に来日され、日本文化の研究を続けておられる気鋭の東洋文化学者です。今回は、金沢西茶屋街の例を通して、日本文化の伝承がどのように行われているかを、自ら作成された「駒寿姐さん一芸者になった学校の先生:金沢西茶屋街の素顔(原題:Komaeya Onesan-A School Teacher Geisya;An inside look at Kanazawa's Nishi Pleasure Quarters)」と題するドキュメンタリー・ビデオを用いながら説明されました。

私たちは、日本人でありながら日本文化を十分に理解しているとは言えません。国際理解を深めていこうとしている私たちにとって、日ごろの日本文化理解の不足についても、思いを致す貴重な機会でした。

12月(特別例会) 12月17日 18:30~20:00

テーマ 「英国人の国民性:孤立した地理的条件の産物か?」

スピーカー Helen Gerrard(富山外国語専門学校講師)

これらの講話・座談・討論などすべて英語で行なわれました。

多国言語文化交流クラス

当センター

第26回

リンガラ語(コンゴ民主共和国)

10月5日

講師 ワンズィオ ビディ フレデリック 氏

コンゴ民主共和国では、約250の部族語が話されている。そして、4つの共通語(コンゴ語、リンガラ語、ルバ語、スワヒリ語)が国を四分してそれぞれ共通語として用いられ、公用語は、フランス語なので学校の授業もフランス語で行われている。リンガラ語の語順は英語と似ている。動詞は語幹の前の部分が人称変化し、語幹の後の変化が時制その他を表す。

コンゴには、白いサイやオカビなど動物がたくさんいて、サファリパーク「ビルンガ」が有名。

第27回

フィリピン語(フィリピン共和国) 11月2日

講師 レア サンバホン 氏



フィリピンは約7000の島からなり、約2000の島に人が住んでいます。ルソン島やミンダナオ島は最も大きい島でバナナ農園の開発など日本にかかわりが深い。スペインの植民地時代が長かったせいでアジアでは珍しいキリスト教徒が多い。しかし、一部先住民たちは精霊信仰を守って、現在でも儀礼やさまざまな祭礼を行うなかで暮らしを営んでいる。120を超える言語があり、以前は国語としてタガログ語を使用していたが現在はタガログ語を基礎としたフィリピン語と英語が公用語となっている。

第28回

ラオス語(ラオス人民民主共和国) 12月7日

講師 サイボン ブンシュ 氏

ラオスは5ヶ国(中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナム)に囲まれて半分以上が山がちの土地で、ラーオ族(60%)のほか、モン族、アカ族、ヤオ族など68民俗で構成されている。たくさんの言語があり、現在はラオス語が公用語となって教科書はラオス語を使用している。

まだ、学校のない村が多い。最近になって周辺国とのボーダーも開き始めて、国際電話は1995年頃から、また、電気が24時間使用できるようになったのは2001年からだという。

国際教養委員会

美しく豊かな町 親切で礼儀正しい人々

秦皇島市日本語研修生 管 立新 氏



私は、富山市の山、海、食べ物など自然資源と生活環境に深く感銘を受けました。富山市民の親切さ礼儀正しさが私に終生忘れぬ大きな感慨となって残っています。

私が行政研修している市役所では、毎朝知らない人同士も知っている人同士も「おはようございます」と言って、おじぎをします。

夜、仕事が終わった後で、みんなお互いに「さようなら」とか「おやすみ」などと言います。

また、来日して始めの1ヵ月ぐらい、私が胃炎になりましたが、皆様からのいたれりつくせりの配慮をいただいて、そのおかげでいま、私の胃炎はだんだん治りました。

私が研修しているもう1ヵ所の富山市民国際交流協会にはさらに友好的な雰囲気があふれています。まるで大家族のような感じがしました。彼らは笑顔で外国の友人を親切に対応します。ここでは70代、80代の高齢者もボランティアとして、富山市の国際交流事業のために力を尽しています。私はこのことにとても感心しました。富山市の国際交流事業に真に求められるものは“人と人との交わり”だけではなく、“心と心の触れ合い”であると私は考えます。

食堂の人にしろ、大学の先生にしろ、彼らはみな友好的な言葉と礼儀正しい態度で私と交流してくれます。

これからも、富山市の人々と接しているうちに、楽しい思い出がいっぱい胸に残るに違いありません。

私としましては、富山市民の皆さんに「きらりと輝く・人・まち・とやま」という人々にも住みよく、魅力ある町づくりを目指していただきたいと願っています。

「こんにちは」富山市です。

ボランティアによる日本語レッスン

当センター

当協会の日本語講座は、毎週火曜日夜7時より開講していますが、時間等の理由で講座を受講できない人たちのためにボランティアによる日本語レッスンを開いています。現在は、12クラスあります。

今回は、その中の1クラスを紹介します。

水曜日の夜5時30分からは、アメリカ、イギリス、マレーシアなどの人たちが、日本語を学んでいます。ビデオを見たり、ゲームをしたりしながら楽しくどんなに悪い天気でも休まずに出席して、みんな熱心に勉強しています。初めは全く話せなかった人も今では日本語で会話ができるようになりました。



オメデトウ…きもの姿もきれいネ！

日ごろ、当協会に集う外国の人たちも挑戦しました。「2003全日本きもの装いコンテスト・きものフェスティバル北陸大会」の外国人の部に、ソニアさん



11月20日 魚津市新川文化ホール

(メキシコ)、クラウディアさん(オーストラリア)、ヘレンさん(イギリス)が出場しました。容姿はもちろん立ち居振る舞いもバッチリ！ソニアさんは1位に入賞しました。

「とやま県童謡フェスティバル'02」

とやま童謡の会などで組織する実行委員会が主催する「第18回とやま県童謡フェスティバル」が開催され、児童合唱団や青少年少女合唱団、声楽家など約200人が童謡や唱歌などを熱唱し、大勢の親子が夢と希望のステージを楽しみました。

日ごろ、当協会に集う外国の人たちも参加して、ルンビニ園の子供たちと一緒に、アメリカ、中国、韓国などの歌を歌いました。



11月4日
富山国際会議場

交流あれこれ

富山とアセアン諸国の 友好のきずなを深める！

内閣府が主催する「東南アジア青年の船」事業の参加者330人のうち、11ヵ国29人が9月13日富山県庁を表敬訪問しました。一行は15日まで県内に滞在し、富山国際大を訪れ学生と交流を深めたり、ホームステイなどで日本文化を体験しました。

「東南アジア青年の船」の事業は、日本と東南アジア諸国の青年約320人が、約50日をかけて「青年の船」で日本と東南アジア数カ国を訪問し、船内及び訪問国において生活を共にしながら、各種の交流活動を行うことにより青年相互の友好と理解を促進することを目的としており、昭和49年から毎年行われ今年で第29回目となります。



自分たちで作った和菓子で抹茶をいただきました

中国朋友と話そう会

富山・中国ネットワークは、12月2日当センター会議室で中国の人たちと自由にたのしい交流をしようと“中国朋友と話そう会”を開催しました。中国茶の香りにお菓子なども楽しみながら温かく気楽な雰囲気の中で中国語・日本語で話が弾み、変化の激しい中国の現況や富山での生活などについて話しあい、お互いが深く理解する良い機会となりました。

会員のみなさんへ〈会費納入〉のお願い

○会費 1口 個人 3,000円 家族 5,000円 法人 10,000円

○納入方法 ①当協会窓口 ②振込(北陸銀行富山市役所出張所 口座「富山市民国際交流協会」普通預金 No.4076440)

お知らせひろば

お申し込み・お問合せは当協会まで
TEL 442-1109 FAX 442-3807

「2003年新春国際交流の集い」

- ・とき 2003年1月11日(土) 14:00~16:00
- ・ところ 富山市民プラザ 2Fアトリウム
富山市大手町6-14 TEL076-493-1313
- ・参加費 日本人(会員) 大人 1,000円
子供 500円
外国人 無料

日本舞踊 祝舞
世界の国々から…いろいろな新年の迎え方
マレーシアの踊り
勝ち抜こう! じゃんけんゲーム
みんなで踊ろう…越中おわら踊り
大当たり! 抽選会



※ 参加は自由です。ドンドン申し込んで下さい。
(150名になり次第締め切ります)

国際交流フェスティバル2002

国際協力チャリティバザーにご協力ありがとうございました。

みなさまの温かい善意は、スリランカで活動している、元青年海外協力隊の荒山洋子さん(当協会の前事務局職員)を通して、「小さなハートプロジェクト」の方へ贈りました。スリランカの産院のベット購入等、社会福祉向上を目的とした活動に使用されます。

現地からの
e-mail

From 荒山洋子



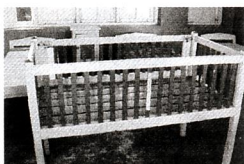
ガンパハエステート
私の住んでいるスリランカ ガンパハエステートです。この茶畑の広がる山間の底に産院があります。



産院
Maternity Ward (産院) です。年間に30人の新生児が誕生していますが、そのうち20件近くがこの産院で生まれます。



分娩室
分娩室の分娩台はマットレスがないため、木の台そのままの上で出産することになってしまっています。一緒に写っているのが、ここの助産婦さんです。



ベビーベッド
ここには助産婦さんしかいないため、看護のため家族が付き添います。付き添いのためのベッドも必要なのですが、ベッドマットレスは、カバーもやぶれてしまったり、古くなってしまい、汚れも目立ちます。新生児用のベビーベッドにもマットレスがありません。古すぎたため処分したそうです。



ここのエステートで茶摘をしているお母さんとその赤ちゃん
このお母さんと赤ちゃんたちが気持ちよく過ごせるために、なんとかしてあげたいと思っています。

多国言語文化交流サークル

国際教養委員会

ブルガリア語 (ブルガリア共和国)	2月1日(出) 10:00~11:30	当センター
----------------------	------------------------	-------

英語スピーチと討論クラス

国際教養委員会

3月18日(火) 18:30~20:00 当センター	テーマ 「英語の学習意欲を高めるために英字新聞を活用しての総合的英語授業法」	スピーカー 鎌仲 世知子 氏 県立氷見高校・有磯高校講師
----------------------------------	---	------------------------------------

中国語の集中講座

国際教養委員会

3月の毎週土曜日	3月1・8・15・22・29日 10:00~12:00	当センター
----------	--------------------------------	-------

もっと知ろう世界の街

文化交流委員会

スコットランド	2月9日(日) 13:30	当センター
---------	---------------	-------

七宝焼教室

文化交流委員会

七宝焼教室	3月2日(日) 13:30	当センター
-------	---------------	-------

料理教室

ボランティア委員会

中国風おもてなし料理	2月27日(木) 10:30	エルフ富山
------------	----------------	-------

国際交流カレッジ

総務企画委員会

3月8日(土) 14:30~17:00 当センター	テーマ 多文化共生の地域づくりをめざして	講師 杉澤 経子 氏 武蔵野市国際交流協会 プログラム・コーディネーター
---------------------------------	-------------------------	---

編集後記

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

富山市民国際交流協会は、平成5年1月13日に設立され10周年を迎えました。10周年を一区切りとして新たな一歩を踏みだし、その活動にさらなる発展を期待されるのではないのでしょうか。

国内研修に参加しました、(財)三鷹国際交流協会と武蔵野市国際交流協会を訪ねました。それぞれの意識が高く、協会のサポートや行政の支援と理解など環境が整っていて学ぶことがたくさんありました。

なかでも武蔵野市国際交流協会では、①地域の外国人のサポート②地域の人たちが外国人に慣れることへのサポート③姉妹友好都市(ガバメントtoガバメント)などの交流から市民レベル(対等)の交流を進める。とありました。「対等」とは、(～をしてあげる)(～をしてもらう)ではなく(一緒にしよう)(自分たちもしたい)と、新たにそこに住むことになった多国籍市民と、もともとこの地に居住している先輩市民が共に生きて、そして、そこに生活していることを喜びに感じるという市民交流にしていきたいということでした。

当協会の行事で、日本人○○○・外国人○○○としていることについても、「対等に、協力し、体験して、感動する、相互理解交流を!」と、共に喜びを感じる市民レベルの国際交流を目指すことの大切さを改めて気づかされ考えさせられました。

今後は、在住外国人の増加により「内なる国際化」を進めるためにも、一層、お互いが対等な目線で向き合って真の国際交流をすすめていきたいものです。

広報委員長 岡田 昌代